

令和 8 年度第 1 回中央区高齢者施策推進委員会 会議記録

名 称	令和 8 年度第 1 回中央区高齢者施策推進委員会
日 時	令和 8 年 6 月 5 日（金）18：30～20：00
場 所	中央区役所本庁舎 8 階大会議室
出席者	〔委員 14 名〕下線は欠席 和気康太（委員長）、望月孝裕（副委員長）、<u>田野大人</u>、戸所綾子、<u>鈴木禎</u>、中村守、<u>萱野佐百合</u>、上野双葉、橋本雅子、八木英之、小磯幸子、中村幸子、祖父江由美、上田勉、遠藤龍雄、保田奈奈、<u>生島憲</u>、大久保捻、田部井久、<u>河合江美</u> 〔事務局〕 高齢者福祉課長、介護保険課長、保険年金課長、住宅課長、高齢者福祉係長、高齢者活動支援係長、高齢者サービス係長、介護保険課管理係長、事業者支援給付係長、介護認定係長、地域支援係長、高齢者健康支援係長、指導担当係長、高齢者福祉係主査、介護保険課管理係主査
傍聴者	0 名
配布資料	〔配布資料〕 ・資料 1 計画策定スケジュール ・資料 2 中央区高齢者保健福祉計画・第 9 期介護保険事業計画 令和 7 年度の取組状況と評価(重点事業) ・資料 3 中央区高齢者の生活実態調査及び介護サービス利用状況等調査報告書 結果報告 ・報告資料 1 インセンティブ交付金 (保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金) ・報告資料 2 第 6 期介護給付適正化計画の取組状況と評価 〔机上資料〕 ・中央区高齢者施策推進委員会委員名簿 ・第 1 回中央区高齢者施策推進委員会座席表 ・中央区高齢者の生活実態調査及び介護サービス利用状況等調査報告書、 同（概要版） ・中央区高齢者保健福祉計画・第 9 期介護保険事業計画（令和 6 年度～令和 8 年度） 高齢者福祉事業のしおり ・介護保険べんり帳 ・参考資料 1 中央区高齢者保健福祉計画・第 10 期介護保険事業計画を策定するにあたって<令和 7 年度第 1 回委員会資料>

議事要旨

1 開会

事務局より、本日は傍聴人が0名、議事録の作成について説明。委員のご紹介。

2 議題

(1) 計画策定スケジュール及び中央区高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の進捗状況について

事務局より、資料1計画策定スケジュール及び資料2中央区高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画令和7年度の取組状況と評価(重点事業)について説明。

【和気委員長】

介護保険制度は平成12(2000)年の施行以来、3年を1期とする計画に基づき運営されており、現行計画の評価と次期計画の策定を繰り返して実施している。また、自治体は国のガイドラインを参考にしながら地域の実情に応じた計画を策定しており、本会議でも現行計画の評価と次期計画の検討を進めていく必要がある。

【上野委員】

民生委員として活動していく中で、高齢の子が高齢の親を介護しているようなケースも見受けられ、事業の達成状況の評価だけでは実際に支援が必要な人を十分に捉えられていないのではないかと思います。また、支え合いやサロン活動などの取組についても、実際に地域でどのように支え合うのかが見えにくく、支援を必要としている人により届くような工夫が必要ではないかと考える。

【事務局】

事業評価指標は分かりやすさを重視して設定しているが、この3年間で状況が変化し、実態との乖離が生じているところもある。今後の計画策定においては、現実に応じた事業評価指標となるよう委員の皆様のご意見を踏まえながら見直し・改善を図っていきたい。

【上野委員】

私は民生委員、町会活動をやっているため、区民の声を拾うことができていると考えている。そのために委員に選ばれていると思うので、その声をこの委員会に届けたい。

【和気委員長】

事業ごとの目標達成状況による評価では、高齢者の生活の質や幸福感の向上といった成果を十分に評価することが難しい部分もある。今後は区民の意見等も踏まえながら、分野横断的な連携や包括的支援体制の視点を計画に反映していく必要があると思う。また、個別事業の評価と全体施策の評価にずれが生じる場合があることや、3年前に設定した目標値と現在のニーズとの間に乖離が生じることは一定程度避けられないものの、できるだけ実態に応じた評価を行うことが重要だと考える。

(3) 中央区高齢者生活実態調査及び介護サービス利用状況等調査結果報告

事務局より、資料3中央区高齢者の生活実態調査及び介護サービス利用状況等調査報告書について説明。

【戸所委員】

調査F医療・介護が連携していると考えられる割合について、令和4年88.3%から令和7年74.6%と減少しているが、医療機関と介護事業所はそれぞれ独立しているので結果的に情報共

有がうまく行われない場合があることも影響しているのではないかと考える。

【和気委員長】

現状 70%台のため高い水準と考えているものの、その要因については今後精査が必要と考える。

【事務局】

医療・介護連携を進める上では ICT の活用を進める一方で、医療・介護関係者が顔の見える関係を構築することも重要であるため、引き続き医師会等と連携強化を図っていきたい。

【小磯委員】

以前に比べて医療関係者の介護に対する理解も深まっていると感じている。

【大久保委員】

医療・介護連携に対する評価基準が以前より高くなっていることも調査結果に影響していると考え。

3 報告事項

事務局より、報告資料 1 インセンティブ交付金（保険者機能強化推進等交付金及び介護保険保険者努力支援交付金）、報告資料 2 第 6 期介護給付適正化計画の取組状況と評価について説明。

【和気委員長】

介護保険制度では、介護予防を推進し重度化を防ぐことが重要となっており、積極的に取り組む自治体には交付金によるインセンティブが設けられている。また、介護給付の適正化については、不適切な給付を防ぐためケアプラン点検などを実施しており、中央区は概ね適正に運営されていると思う。

事務局より、今後の日程について説明。

4 閉会

和気委員長の閉会宣言にて終了。